

**ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2011が閉幕  
次年度米国アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象となるグランプリ作品が決定  
環境大臣賞、国土交通大臣賞ほか、各部門受賞作品も**

6月16日から開催され、今年で13回目を迎えた米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア2011 (SSFF & ASIA2011)」(代表・別所哲也)の受賞式が26日、明治神宮会館にて行われ、次年度米国アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象となるグランプリ作品が決定しました。オフィシャルコンペティションは今年23の国と地域から3065作品の応募があり、その中から厳選された16ヶ国、35作品を上映。公式審査員によって選ばれたグランプリ作品は『ヘルムートの誕生日/It's me. Helmut.』(監督: Nicolas Steiner/ニコラス・シュタイナー、制作国: ドイツ/スイス、11:40)でした。

同映画祭のオフィシャルコンペティションでは、2010年に米国アカデミー賞にノミネートされた『マイレージ・マイライフ』のジェイソン・ライトマン監督や、『カンフーパンダ』などのヒット作を手掛けたマーク・オズボーン監督など、現在第一線で活躍する監督たちの作品も数多く出品されてきました。短編映画祭は若い製作者たちが羽ばたくためのチャンスを掴むためのものともいえます。

また、CO2削減に向けた新たな国民運動「チャレンジ25 キャンペーン」(環境省)と連携し、映像を通じて深刻化する地球温暖化問題に警鐘をならすことを目的とした「ストップ! 温暖化部門」、国土交通省 観光庁とともに日本の観光振興を目指す「旅ショート! プロジェクト」からは、それぞれ環境大臣賞、国土交通大臣賞が決定したほか、今年新設された「3D部門 supported by SHARP」など各部門の受賞作品を発表しました。(※各部門の受賞作品については下記をご参照下さい。)

グランプリ作品および各受賞作品は、6月29日～8月31日までの期間、同映画祭と連動したショートフィルム専門映画館「ブリリア ショートショート シアター」(横浜・みなとみらい)にて上映を予定しています。

今年、映画祭全体では104ヶ国、4200以上の作品の中から選りすぐりの約100作品を上映し、約14000人を動員。授賞式には国内外のノミネート監督も参加し、各界から来賓として招いた著名人とともに閉幕を祝いました。先日の東日本大震災を受け実施したチャリティーオークション、また収益の一部は被災地への義援金として日本赤十字に寄付されます。

**★グランプリ作品 ★インターナショナル部門 優秀賞**

**■オフィシャルコンペティション**

今年のオフィシャルコンペティションは23の国と地域から3065作品の応募があり、その中から厳選された16ヶ国、35作品を上映。コンペティション対象作品の中から、下記5名の審査員がインターナショナル部門、アジア インターナショナル部門、ジャパン部門から各1作品を“優秀賞”として選定。この3作品の中から選ばれたグランプリ1作品は、次年度米国アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象となります。

優秀賞はオフィシャルコンペティション各部門の優秀1作品に贈られる部門別の最高賞。ショートショート実行委員会/ショートショートアジア実行委員会より賞金として60万円、副賞としてキャノンマーケティングジャパン株式会社よりデジタル一眼レフカメラ「EOS 5D Mark II」が贈られます。また、アジア インターナショナル部門、ジャパン部門の優秀賞には東京都知事賞が贈られます。

公式審査員(50音順/敬称略): 犬童一心(映画監督・CMディレクター)、小澤征悦(俳優)、菊川怜(女優)、鳥越俊太郎(ジャーナリスト)、ジョージナ・ポープ(プロデューサー)



**タイトル:『ヘルムートの誕生日/It's me. Helmut.』**

監督:ニコラス・シュタイナー  
制作国:ドイツ/スイス 尺:11:40

**【あらすじ】**

57歳の誕生日を迎えたヘルムート。だが、妻の計算間違いで60歳を祝うことに。そんな中、彼のもとに古い友人たちが顔を見せる。彼らは、見せかけだけの優雅な生活を送っていたヘルムートに、「愛」と「はかなさ」についての奇妙なメッセージを残していく…。



**【ニコラス・シュタイナー監督:プロフィール】**

1984年生まれ。スイスアルプスの小さな町で育ち、高校時代はスイスの映画に出演。スイス軍の音楽隊に在籍した後、デンマークのヨーロッパフィルムカレッジに入学する。その後チューリッヒ大学で、社会人類学、科学映画、政治を、2007年からはバーデン・ヴュルテンベルク映画アカデミーで監督業を学ぶ。

**【審査員より】**

いわゆる映画の決まりごとをぶち破り、今までに見たことのない創造性を、いたってシンプルかつ思い切ったスタイルで表現した、舞台と映像の融合が素晴らしいこの作品を選びました。

## ★アジア インターナショナル部門 優秀賞(東京都知事賞)



**タイトル:『パープルマン／A Purpleman』**

**監督:**キム・タクフン、ユ・ジニョン、リュ・ジノ、パク・ソンホ  
Tak-hoon Kim, Jin-young Yoo, Jin-ho Ryu, Sung-ho Park  
**制作国:**韓国 **尺:**13:01

【あらすじ】

北朝鮮の刑務所を出所した17歳のヒョク。朝鮮人の彼は、韓国へ脱北を果たし生活を始めるが、貧しさと差別ゆえ生きる希望を失ってしまう。北朝鮮の“赤”にも、韓国の“青”にも属せないヒョク。彼の色は一体何色なのか…？



【監督プロフィール】

Tak-hoonは1972年ソウル生まれ。スクール・オブ・ビジュアル・アーツ卒業。Tak Toon Enterprise Inc.の取締役兼、中央大学大学院の講師。Jin-young、Jin-ho、Sung-hoはいずれも、中央大学でアニメーションを学び、現在はTak Toon Enterprise Inc.に所属。

(左から)キム・タクフン、ユ・ジニョン、リュ・ジノ、パク・ソンホ

【審査員より】

世界中の誰もが知る、ある社会問題をこれまで誰も思い浮かばなかったアニメーションという手法で、見事に描き出し、人類共通の物語へと昇華させた、この作品を選びました。

## ★ジャパン部門 優秀賞(東京都知事賞)



**タイトル:『中国野菜／Chinese Vegetable』**

**監督:**河村勇樹  
**制作国:**日本・フランス **尺:**25:00

【あらすじ】

単調な生活を繰り返す日々の中、正体不明の中国野菜を育てるはめになった夫婦が見つける小さな希望の光。



【河村勇樹監督:プロフィール】

1979年生まれ、パリ在住。2008年監督作品『閃光』を監督する。オーバーハウゼン国際短編映画祭でエキュメニク賞を受賞。2009年、ドキュメンタリー作品『グランドマザー』はパリ国際ドキュメンタリー映画祭、シネマドレエルで短編映画最高賞を受賞。現在、長編映画ドキュメンタリーの製作中。

【審査員より】

日常の中にあるファンタジーが、確かな技術力と映像美で表現されていました。観客を信じて、自身の作家性をあますことなく発揮していた、この作品を選びました。

## ★ストップ！温暖化部門 優秀賞(環境大臣賞)

### ■ストップ！温暖化部門

CO2削減に向けた新たな国民運動「チャレンジ25 キャンペーン」(環境省)と連携し、映像を通じて深刻化する地球温暖化問題に警鐘をならすことを目的とした部門で今年で4回目。応募作品数は世界から282本、13作品がノミネート。

優秀賞(環境大臣賞)にはショートショート実行委員会より賞金として60万円が贈られます。また、昨年に引き続き、この部門の主旨に賛同するJ-WAVEからは、J-WAVE リスナー審査員(5名)によって選ばれる「J-WAVE アワード」が選出され、賞金50万円が贈られます。

審査員(50音順/敬称略):石原良純(俳優・気象予報士)、江守正多(気象学者)、黒谷友香(女優)



ストップ！温暖化部門 優秀賞、J-WAVE アワードのW受賞！

タイトル:『シロクマ／SiRoKuMa』

監督:片岡翔

制作国:日本 尺:14:14

【あらすじ】

「あ、動いた！」ママのお腹に耳をあてると、赤ちゃんが生きているのがわかる。「はやく生まれて、パパとママの顔がみたいでちゅかー」と話しかけてみると、「いややわ」赤ちゃんはたしかにそう言った。関西弁で。

【片岡翔監督:プロフィール】

1982年北海道生まれ。本映画祭に2008年から四年連続入選し、二年連続で観客賞を受賞。近作『くらげくん』は国内映画祭で7つグランプリを含む13冠を獲得。本年は経済産業省製作のもと、二本の短編映画を発表。

審査員より

数々のノミネート作品を見た中で、今回思ったのは、世界中の人たちがあらゆる場所で生きていく中で、常に温暖化問題と隣り合わせということです。「温暖化を考えるということは生きるということ」。それを強く感じました。この授賞作も、それを感じさせてくれます。また、「夏は暑いもの。そんな当たり前のことを人は忘れてる」と改めて感じさせてくれる作品でもありました。



## ★旅ショート！プロジェクト 優秀賞(国土交通大臣賞)

### ■旅ショート！プロジェクト

国土交通省 観光庁とともに日本が持つ魅力ある観光資源を映像コンテンツとして表現し、日本の観光振興を目指すもの。本プロジェクトでは「旅っていいな」、「旅がしたくなった」、「日本に行きたくなるね」をキーワードに、「日本の旅」、「日本の魅力」を描写する作品を募集。今年も全国から86本の作品が公募で集まり、7作品が入選。

審査員によって選ばれる優秀賞(国土交通大臣賞)にはショートショート実行委員会より賞金として60万円が贈られます。

審査員(50音順/敬称略):セイン カミュ(タレント・俳優)、菊川怜(女優)、中島信也(映画監督)



タイトル:『TOURISM HOKKAIDO「街」』  
TOURISM HOKKAIDO "City"

監督:山口洋介

制作国:日本 尺:18:12

【あらすじ】

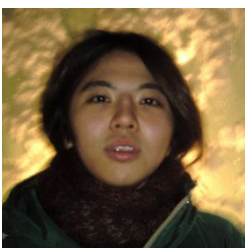
札幌を離れることになった留学生詩雨は小樽に来たばかりの郭富に狸小路で出会い、札幌最後の自転車の旅に出る。郭富は想いを寄せていくが、連絡先も伝えず去ってしまう詩雨。小樽の再会で切ない事実が明らかになる。

【山口洋介監督:プロフィール】

1986年札幌生まれ。大学在学中に北海道経産局主催の各種映像ワークショップに参加。東京のロケーションコーディネイト会社にインターン研修後、2009年『がんばれ、7番！でいれくた〜ず、かつと。』を監督。

審査員より

「町の魅力を紹介するべく物語が構成されている」という点が最も優れていた作品をみんなで選びました。実際、日本人の私たちですら「そこに行ってみよう」と感じた作品もありました。全体的に評価の高かった作品は諸外国に対して観光アピールの役割を見事に果たしてくれるはずだと思います。



## ★3D部門 supported by SHARP 優秀賞

### ■3D部門 supported by SHARP

映画『アバター』の公開も話題となり3D元年とも呼ばれた2010年度の3Dプログラムを経て、今年新設された3D部門ではアメリカ、フランス、コロンビア、韓国などから3Dショートフィルムの傑作が集まりました。また、映画祭コンペティションの作品に加え、3D部門をサポートするシャープ株式会社の「スマートフォン3DコンテストCG・アニメーション部門」から、優秀作品が3D部門優秀賞候補としてノミネートされました。

優秀賞にはショートショート実行委員会より賞金60万円が贈られます。

特別審査員：押井守



シングルショット、幾何学模様を使用した特徴的な3D作品

**タイトル:『ウユユイ／UYUYUI!』**

**監督:サンチアゴ・カイセド**

**制作国:コロンビア 尺:7:08**

**【あらすじ】**

ピクニックにやってきた二人が、強風に襲われ離ればなれに。二人の友情はこの危機を乗り越えることができるのか？



**【サンチアゴ・カイセド監督:プロフィール】**

コロンビア出身の映画監督。彼の3D作品は、ストーリーを伝える道具としてとしてシングルショットや幾何学的なものを用いることが多い。彼の短編映画は世界中の映画祭で受賞している。昨年の『終わりなき旅』『ブレイン・イーター』に続き、SSFFには3作品目の参加。

#### 審査員より

なぜ映画をつくるのか、何のために撮るのか、何故映画でないとならないのか、考えることが大切だと思いました海外作品には、「人を楽しませよう」というモチベーションが感じられました。日本の作品は低調だったように思います。機材も技術も充実してきた今だからこそ、3Dショートフィルムをつくる動機をまずはしっかり持っていければよいのだと思います。

※下記の受賞作品については後日WEBにて発表致します。

### ■ミュージック Short部門

ショートフィルムの視点でセレクトしたアーティストのオフィシャルミュージックビデオ作品と、楽曲をもとにクリエイターが製作したオリジナルショートフィルムを10本上映。また、今年度は特別製作作品としてSuperflyの楽曲、「Ah」をもとに、2010年度ミュージックShortクリエイティブ部門優秀賞受賞の常盤司郎監督が『皆既日食の午後に』を制作。(出演:濱田龍臣、新井浩文、南沢奈央、田口トモロヲ)

### ■オーディエンスアワード

来場者の投票により、オフィシャルコンペティション3部門、ストップ！温暖化部門、旅ショート！プロジェクト、ミュージックShortクリエイティブ部門、それぞれにオーディエンスアワード受賞作が決定します。ショートショート実行委員会より賞金20万円が贈られます。

### ■ベストアクター／ベストアクトレスアワード

オフィシャルコンペティション(インターナショナル部門、アジア インターナショナル部門、ジャパン部門)の中から、優秀な男優と女優に贈られる賞。



米国アカデミー賞公認、日本発アジア最大級の国際短編映画祭。1999年、東京原宿で映像王国ハリウッドに集まったショートフィルムを紹介する映画祭としてスタートして以来、名監督の初期短編映画や、若手映像作家が産み出した作品など、毎年4000本以上にも及ぶ作品が、世界50以上の国や地域からよせられ、のべ14万人を動員するイベントです。これまでに、ロサンゼルス、シンガポール、ミャンマー、などでも開催され、2010年にはマレーシアでも開催。「日本生まれ」の映画祭が海外に展開される「ユニークな映画祭」として注目を集めています。また審査員には、大沢たかお、押井守、奥田瑛二、崔洋一、デーブ・スペクター、武田双雲、竹中直人、土屋アンナ、寺島しのぶ、野口健、堀北真希、村上龍、桃井かおり、山田優など多彩な顔ぶれをお迎えし、様々な視点から審査をいただいています。

2004年には、米国アカデミー賞の公認映画祭として認定を受け、本映画祭でグランプリを獲得した作品は、次年度米国アカデミー賞のノミネート対象となります。また同年10月、石原慎太郎都知事の提案の下、「東京都を拠点とするアジア映像文化のショーケースを設ける映画祭」として「ショートショート フィルムフェスティバル アジア」を「ショートショート フィルムフェスティバル(SSFF)」の兄弟映画祭として開催。日本で初めての、アジア諸国のショートフィルムを紹介する映画祭としてスタートしました。現在は、「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」として、毎年同時開催を行っています。



また、映画祭開催初年度から毎年ジョージ・ルーカス監督に応援いただくなど、世界中の映画人から愛される映画祭として成長を遂げてきました。本映画祭参加監督には、今や米国アカデミー賞ノミネート監督として名高いジェイソン・ライトマン監督や、「カンフーパンダ」などのヒット作を生み出すマーク・オズボーン監督、シンガポールの新鋭、「881 歌え！パパイヤ」のロイストン・タン監督などがあり、今や第一線で活躍する監督も続々と輩出しています。



### <本件に関するお問い合わせ先>

<一般からのお問い合わせ>

ショートショート実行委員会  
TEL:03-5474-8844/FAX:03-5474-8202

<メディアからのお問い合わせ>

株式会社プラップジャパン  
担当: 持富、伊藤、山口  
TEL:03-3486-6868/FAX:03-3486-7502  
Email:k-mochitomi@prap.co.jp